M-6-1-13

資料名　岩手縣に於ける滿洲事情懇談會記事

朝鮮支部滿洲事情懇談會記事

出所　日滿實業協會

作成年　19350805

寄贈者　編者

受入

注記　52P 22×15cm

昭和十年八月

岩手縣に於ける滿洲事情懇談會記事

朝鮮支部滿洲事情懇談會記事

日滿實業協會

寄贈
日満実業協會
年　月　日

岩手縣に於ける滿洲事情懇談會記事

昭和十年五月二十二日

岩手縣商工課長　八島三郎氏

御待たせ致しました。只今から滿洲の經濟事情其の他につきまして詳細に御話を願ふために滿鐵の東京駐在の澤田さん、日滿協會常任幹事の篠崎さん、滿洲國の大阪關稅部長の内海さんの御三人を御招聘申上げました所此度快く御快諾下さいまして日滿の經濟「ブロック」と云ふ事柄につきまして御話を願ふ事になりました。更に又本縣と滿蒙を結ぶと云ふ意味に於きまして私共は滿洲の事情につきましては殆ど未知でありまして此の機會に於きまして此の御三人方の御意見なりを伺ひまして本縣と滿蒙との將來の取引きと云ふ事について確固たる信念を得たいと思ふ樣な次第でありまして、尙御講演が終りましてから座談會を開催致す事にして居りまするから、出來るだけ皆樣方にをかせられましても平素考へられて居りまする事につきまして、御遠慮なく御質問下さる樣御願ひ致します。是から澤田さんの御話がありますから暫くの間御靜聽願ひます。

滿洲特産物と日本經濟界の關係に就て

滿鐵東京支社　澤田壯吉氏

私は只今御紹介にあづかりました滿鐵東京支社の澤田と申すもので御座います。現在私は滿鐵滿洲特産物關係業務の東京駐在員といふ名目のもとに特産物を專門に仕事をして居りまするので、これを中心として更に我國との經濟的關係につき私見を加へ簡單に申上げたいと存じますから、暫らくの御靜聽を御願ひ致します。

御承知の通り滿洲國の面積は約百三十萬平方粁でありまして人口は三千萬人、これを我國全領土の總面積六十七萬平方粁に人口が九千萬人を有してゐる點から見て、如何に人口が粗であるか御想像が出來やうと存じます。從ひまして滿洲國には未だ鍬を入れぬ耕地が澤山あり、千古斧を入れざる大森林が鬱蒼としてゐる狀態であります。

抑も滿洲農業の形態は全國一律には行はれて居るものではありません。卽ち自然的諸條件の地方的差異から招來する諸現象として、作物の種類の相違、農耕地と牧場地等がはつきりと表はれて居ります。併し乍ら耕地面積は一體に南滿洲地方が廣く東滿地方之に次ぎ、北滿及西滿地方は狹小でありますから、未墾地面積は夫々既墾耕地と逆比例してゐるのであります。そこで過去の實績から申しますれば、滿洲の自然的諸條件から豫想される將來の作物の適否を申しますれば、南滿地方にありましては高粱、玉蜀黍に快適し、北滿地方は小麥が適して居り、大豆、粟、陸稻等は全滿に適し、落花生は南滿洲の南半部のみに適するといふ狀態であります。

一體滿洲の特産物と申しますれば常識的には大豆、大豆油、大豆粕の三品となつて居りまして昭和八年の滿洲國の輸出總額は四億二千餘萬圓中農産物が六割八分を占め、この三品のみで總額の五割四分にも當つてゐる點から見ましても、滿洲に於ける最も重要な物産と申すことが出來ると思ひます。然し私が茲に云ふ特産物とは右三品以外に高粱、玉蜀黍、粟、小麥、小豆其他の豆類、それから蓖麻子、荏胡麻、胡麻、麻實、落花生、棉實等の製油原料及び其他の雜穀類を總括した滿洲農産物を指すものと御承知願ひたいのであります。

申すまでもなくこれ等特産物は三千萬民衆の約八割に當る農民がその土地に親しみ、營々として働き全く彼等の汗から生産するところのものであり、その大半が海外に輸出せられこれに依つて生計を

建てゝ行くものでありますから、只今申しました如く輸出貿易の大宗を占めてゐる點より考へまするならば、實に特産物こそ滿洲財界の基礎でありまして、特産物の消長こそは經濟界を左右するものといはねばなりません。

偖而過去數年間の實況から申しますれば滿洲特産物は一昨年迄は比較的順調に生産せられ、內外の需要も大體これに均衡がとれてゐたのであります。尤も昭和七年は北滿の大洪水等のため收穫量は幾分減じ、昭和八年はまづ平年作でありましたが、昨年來國際的環境の變化に伴ひまして、歐洲方面の市況不振、各國共競うて外國商品に對する關稅障壁を愈々高めて來たのみならず、外國農産物に對する輸入の制限或は禁止などを行ひました影響は、非常に悲觀的の材料を滿洲特産界に投げかけまして、昨年度は近年になき特産物の大暴落を見たのでありました。そして九年度に這入りますと滿洲の天候は頗る不順で、農産物の成育時期たる七、八月頃は各地共氣溫が例年になく低く、しかも降雨が頻りに續きましたため、作物の發育は害せられ、結實も亦非常に惡かつたのであります。丁度それは御當縣が昨年冷害の大災禍をうけられたと同樣な狀態であつたわけで御座います。斯樣に氣溫の急激なる降下は多大の不利を作物に與へ、その結果は甚しき農産物の減收を見たもので御座います。これは南北滿を通じて平年作に較べ大豆約百萬噸、大豆以外の穀物約二百四十萬噸合計約三百四十萬噸の減收と云ふ大凶作であつたのであります。この數量は昭和九年度の第三次發表にかゝはる滿洲國、滿鐵共同の收穫高豫想調査會の調査でありまして、一方昨年は世界各地共農作物の出來が惡かつたため、俄然歐米方面からの需要が增加するだらうと云ふ豫報等が傳へられたことは著しく各特産物の相場を硬化せしめ、殊に雜穀の如きは自國の需要にも不足を豫想された位でありますから、農民も取引業者（糧棧）も先高見越しで賣惜しみの傾向が生じたことは當然でありまして、本年二、三月頃には愈々特産物の値段の騰貴に拍車を掛け未曾有の高値を現出したので御座います。併し乍ら極最近になりますと、世界市場の不況、日本內地の需要減退等の事實が續きまして、豫期せられた樣な海外の需要は期待されなくなり、且つ昨年度の收穫豫想が實際以上に不良に報ぜられたとも云はれ、この二三日前から産地の市況は俄かに相場に軟調を帶びて參りましたから六月以降は反動的下落の氣配を示すものではないかと存ずるので御座います。

以上申しました如く滿洲特産物は實に滿洲國經濟の生命線とも云ふべき重要な位置を占めてゐるのでありまして、これ等農産物を最も合理的に使用することが我が國に於て出來るならば、所謂日滿經濟統制上誠に好都合なものと思はれるのであります。先に述べました樣に何分海外諸國は自國農業保護のため、滿洲國特産物の輸入の如きは極度に制遏する政策をとつてゐる現狀から考へまして、脣齒

輔車の關係にある我が日本に於て出來得る限り之を利用し消化すると云ふことは當然であらうと存ずるのであります。

併し乍ら大に茲に考慮せねばならぬことは、滿洲特産物を我國に輸入するため日本農界に脅威を與へる樣なことがあつてはならないと云ふ點であります。申すまでもなく五百萬戸の農家を有する我國は現在に於ても尙ほ農業國でありますから、農産物或は農業の範圍におきましては、日滿兩國に於て有無相通ずると云ふ點を尊重せねばなりません。されば爰に日本內地で足りぬ物を外國から輸入する必要ある場合は、優先的に滿洲特産物を利用することが當然であると思ふので御座います。

飜つて考ふるに滿洲國創設以來、日本國民の滿洲に對する認識は非常に深められて參りまして、同國をして日本商品の最大の消費地たらしめやうとする意見は全國的に擡頭し今や滿洲國の輸入貨物は、日本品がその大部を占めてゐるといふことは統計上如實に物語つて居るので御座います。承はれば御當縣に於きましては水産物其他の縣産品を滿洲國に輸出せんとする御計畫があり、既に一部は實行せられてゐることは誠に結構なことゝ思ふのでありますが、昔から「與へよ然らば求められん」と云ふ諺の通り、先づ彼等滿洲國民に我々は購買力を與へねばならぬと考へるのであります。

滿洲三千萬の民衆は多年舊軍閥の暴政により而して苛斂誅求に泣いて來たのであります。これがため滿洲の農村は極度に疲弊して居ります。搗てゝ加へて滿洲國創立以來國際的の經濟變動は既に交換經濟を營む農民をして愈々破算的打擊を與へた結果現在の同國大衆には購買力が缺乏し、甚だしきは生活必需品すら入手出來ぬと云ふ悲境に沈淪してゐるので御座います。

從つて今迄滿洲國に輸出せられた日本品と致しましては新設せらるる鐵道及建築材料等が大部を占め、一般商品は僅かに在滿約三十萬人の邦人と一部分の滿洲人に物資を供給するに留まつて居るため其範圍は誠に狹いものでありました。故に將來三千萬の大衆に物資を供給するといふならば、先づ彼等に購買力をつけてやらねばならない。これが爲めには彼等の生産する多量の農産物を、我が國民がつとめて利用する策に出でねばならないものと思ふのであります。

餘談はさておき滿洲特産物の概要について極く簡單に申上げて見ますれば普通作物といたしましては大豆、高粱、粟、玉蜀黍、小麥、小豆、綠豆等であり。特用作物といたしましては蘇子、麻實、胡麻、棉實、落花生、蓖麻子等の油料子實で御座います。

大豆は二百餘程に分類されていますがこの中で最も普遍的なものは黃豆（ホワントウ）といひまして含油量が多く、食用としても又搾油用として佳良であり、滿洲では農家の副食物、飼料に用ひられ全滿の推定生産量は年額約四千萬石（四百六十萬瓲）で、中一千萬石は農家で消費され、一千七百萬石內外が滿洲

で豆油を搾り、一千二百萬石内外は大豆のまゝ輸出せられるといふ狀態であります。大豆の主な輸出先は獨、日、英、露、支那、及び埃及等であつて、實に全世界産量の六割は滿洲から生産されて居るのであります。

凡そ大豆の中には約十八パーセントの油脂を含有して居りますので、現在滿洲には四百餘戸の油房があつて、大豆を壓搾して豆油を採り、粕と共に商品として、豆油は主に歐洲諸國に、豆粕は我國へ仕向けられて居ります。而して豆油は昭和七年頃迄は一年十四、五萬瓲を輸出して居りましたが、昭和八年及び九年は平均僅かに八萬瓲に減じて居ります。大豆粕も亦昭和七年迄は一年百五、六十萬瓲の輸出であつたものが、昭和八、九年は百十萬瓲内外に激減したので御座います。

抑も滿洲に於ける工業界に於きまして、大豆工業は最も重要なものとなつて居り、その搾油の方式は舊い楔式の他に螺旋式、水壓式、ベンジン及びアルコールによる抽出式等順次進歩して居りまして、豆粕はその形狀によつて丸粕、板粕、撒粕の三種となり、その用途は飼料、肥料、食料となつてゐます。只今申述べました樣に大豆粕はその大部分は日本内地に、これに次ぐは臺灣、朝鮮、支那及び其の他に輸出されて居りますが、この豆粕が我國に供給せられましたのは明治四十年以後のことで、大正十二年頃は二百數十萬瓲にも達しました。御承知の通り我國では、從來豆粕を悉く肥料として用ひてゐたのでありまして、その後漸次減つて參りましたものの、昭和二、三年頃は二百萬瓲となりそれから遞減して百五十萬瓲位に減じ、昨年の如きは僅か百萬瓲となつてゐるのであります。此の如く日本内地に於ける大豆粕使用量の激減は滿洲の重要工業たる油房業の衰亡を招來し、惹いては大豆の下落を來たしますから滿洲經濟界に及ぼす影響は實に甚大なものと言はねばなりません。

一體内地に於ける大豆粕の需要の減つた理由といたしましては、近年化學工業の發達に伴ひ硫酸アンモニアが内地に於ても生産される樣になり、價格が廉くなつた結果、滿洲大豆粕が壓迫された爲めでありまして將來とても大豆粕の肥料としての生命はだん〳〵失はれて行くものと見て然るべきものと存じて居ります。この趨勢を窺知致しました滿鐵會社は、滿洲特産物の大宗をなす大豆粕の使用量が減ることは、滿洲産業上由々しき影響を與へるものではあり、一方肥料として比較的に廉價と云ふべからざる豆粕を、徒らに日本の農村が肥料として用ひた結果が農村を疲弊せしめた原因であつたことに思ひを致しまして、元來大豆粕の如き蛋白質に富んだ貴重の榮養品を惜氣なく肥料に供してゐるのは我國のみであつて、遠く歐米地方は素より支那、滿洲に於てもこれを飼料として用ひて居る實況に鑑みまして、「肥料の飼料化」運動を提唱し去る昭和二年來、農林省幷に各府縣の御協力を得て、大豆粕飼料化事業に乗り出して參つたので御座います。

近年我が國内に於ける畜産物の需要量増加と一方農林省御當局の有畜農業奬勵に伴ひまして、内地に於ける家畜及家禽數の増加は著しいものがありますが、これがため飼料問題も相當に論議せらるゝに至り、現在に於ては大豆粕は重要なる飼料として認められる樣になつて來たのであります。

滿鐵會社は昭和二年農林省畜産試驗場に對し家畜及び家禽飼料として豆粕利用調査を五ヶ年間、愛知縣農事試驗場に對して大豆粕を鷄、牛、豚の飼料としての利用試驗を同じく五ヶ年間並に東京帝大農學部に對し大豆油及び大豆粕中の含有ヴイタミンの研究と肥料としての大豆粕及び硫安の比較試驗を一ヶ年間と云ふ風に、夫々其途の權威者に學術的試驗を委託しました結果、滿洲大豆粕は家畜及び家禽の飼料として、誠に恰好のものであるといふ成績を得ましたので昭和五年度以降いよ〳〵飼料化普及事業に乘り出して來たので御座います。

即ち昭和五年度來兵庫、廣島、香川、群馬、宮崎、山口、岡山、愛知、鳥取、島根、愛媛、福岡、鹿兒嶋、滋賀、岐阜、新潟、栃木等の諸縣に一縣三年間位の普及事業を委託する外、立川養豚場、北海道帝大、宮崎高等農林、京都帝大、之れに御當地の高等農林學校等に各家畜に對する飼養試驗及び大豆粕飼料化による排泄物の肥効試驗を委託いたしました外、昭和七年から千葉及愛知縣安城に滿鐵飼料研究所を新設して前者は和牛、後者は主として鷄に對する大豆粕の試驗を實施中なので御座います。

而して過去約八年間に於けるこれ等の試驗成績は最初豫期せられた以上の良結果を得たのであります。申す迄もなく動物の發育成長上最も重要な飼料成分といたしましては蛋白質でありますが、大豆粕には四十五パーセント内外の夫れを有して居りますので、飼料として極めて良好なるのみならずいづれの家畜、家禽に於ても喜んでこれを食べるのであります。また蛋白含量の多き飼料を用ひた動物の糞尿中には、これ等の體内分解による窒素成分の多いことも亦當然でありまして、從ひまして大豆粕飼料による家畜から生産した厩肥の肥効は、他の飼料による厩肥よりも遙かに良好であると云ふ結論に達したのであります。

思ふに内地農村の疲弊は積年に亘る金肥の濫費がその最大原因となつて居りますから、農村の更生策として金肥を出來る丈け少くして肥料の自給を圖ることが焦眉の急であると存ずるので御座います。尤も農村振興策の第一義は農民そのものの精神を作興して、眞に農村改善のため熱あり、意氣あり、且つ努力する信念を附與せねばならず、これが目的に於て御當縣の六原青年道場の如き施設は最も時宜に適するものであり、各府縣共近來同樣の施設に向ひつゝあることは誠に御同慶にたへぬ次第でありますが、技術的方面から申しますならば肥料殊に金肥の消費量を減ずる策に出づることが極めて必要のものと言はねばなりません。内地に於ける肥料の消費は昭和四年度の如きは實に三億一千六

百萬圓に上りその反當り別平均消費量は約六圓に達してゐました。これを日露戰爭當時の總消費額四千萬圓、反當り施肥金額七、八十錢であつたものに比して、如何に最近三十年の間に我國が、金肥消費國となつたかを窺知することが出來、誠に思ひ半ばにすぎるものが御座います。それで現在農林省に於て盛んに奬勵指導して居られますところの有畜農業こそは、明かに肥料の自給を得らるゝ結果となり、家畜を飼養することにより肥料を自給することが出來るといたしますれば、一方家畜の成長に伴ひその勞力を利用し、又乳や卵を得、毛を剪毛し、屠殺しては肉や皮革を得られこれによつて副業的利益を擧げることが出來ますから、農家經營と致しましては一石二鳥の方法であると信ずるのであります。然し家畜を飼養するといふことになりますれば、勢ひ茲に飼料問題が起つて參るのであります。有畜農業の趣旨は勿論飼料の自給を原則とするのでありますけれども、國土狹隘なる我國に於ては到底飼料の自給自足は望むべくもありません。されば我國では年々二千六百萬圓の飼料を外國より輸入してゐるが、この以外に普通穀類及び粕類にして輸入されたものの中飼料に利用せられるものが少くない。故に少くも五、六千萬圓の飼料を輸入品に仰いでゐるものと見ることが出來ませう。從ひまして從來肥料として用ひた、滿洲大豆粕を飼料に利用してこそはじめて有畜農業の目的を達成することが出來且つ滿洲產業を助成するを得るのでありまして、この點から申しまして大豆粕の飼料化事

業こそは、眞の日滿經濟統制の具體的一例と存ずるものであります。何卒馬產地たる當縣の如きも、農民の生產された大豆はこれを成るべく高價に賣り、この金で低廉なる大豆粕を購入して馬糧とせられる事を農民に對し各位より御慫慂願ひたいものと思ふので御座います。

最近科學の進步に伴ひまして滿鐵中央試驗場の佐藤正典博士により發見せられました大豆加工に、アルコールを以て大豆油を抽出する方法が案出されその生產粕にソヤレックス（大同豆と云うて居ります）と云ふものが創製せられ、既に大連に滿洲大豆工業株式會社と云ふのが出來まして、一日原料大豆七、八十瓲宛を加工して居りますが、この粕は普通の大豆粕と異り頗る良質のもので、飼料としては乳牛及び養鷄に適當であり、食料としては味の素の原料、醬油原料として且その製粉は榮養食料品として、パン、菓子、うどん等の原料として近來非常に各方面から注視せられて參りました。

次に主要な特產物として擧ぐべきは高粱であります。これは紅粮（ホンリヤン）ともよばれ滿洲では主に滿洲人の食料として又飼料として消費されるが、高粱酒の材料とするものが少くありません。その年產量は三千七百萬石內外（約四百萬瓲）であつて我國への輸入量は十萬瓲內外でありますが、養鷄及びその他の飼料として重要な原料なるのみならず、現在我國もこれを以て製飴原料となし、或は精白して菓子其の他の食料として利用する量が逐年增加して居ります。

これに次ぐは粟であります。これは年々二千八百萬石内外（約三百萬瓲）を生産されますが、この中年々百七八十萬石は朝鮮に輸入されて居ります。鮮人農家は自分の作つた米を内地向に賣り、彼等は廉價な滿洲粟を主食料としてゐるので御座います。

また玉蜀黍の生産を見逃すわけには參りませんが滿洲でこれを包米と稱んでゐます。その產額は一千二百萬石（百五十萬瓲）でありまして養鷄飼料として我國に輸入さるゝものが相當量に上つて居ります。

以上は普通作物の主なものでありますが特用作用として重要なものといたしましては油料子實でありませう。我國の植物油工業の最近の發達は實にすばらしいものでありまして、殊に關西地方を中心として各種の子實を滿洲國から輸入してゐるので御座います。卽ち殆んど世界に於て滿洲國のみと云うてよい位獨占的な油料子實は蘇子（荏胡麻）であります。これから搾抽した荏油は乾性油として亞麻仁油よりも廉價で且つ品質がよいといふので、米國はじめ各國より我國への註文が非常に多くなつて來てゐます。それから胡麻にしても、落花生にしても、苞麻子にしても、又棉實麻實等の各種の油料子實の生產が多いから、實に滿洲國は日本內地に於ける植物油工業界に對して唯一なる原料供給國となつてゐる次第であります。我が國植物油工業は關西、九州方面は相當盛んでありますが、關東、

北海道等は誠に寂寥たるものであり、この東北地方は殆んど絕無と云ふことは遺憾に堪へません。東北地方に於ても工場の數ヶ所位あつてもよからうと存ずるのであります。以上申しましたやうに現在滿洲特產物の我國に於ける利用範圍は、第一に飼料、第二に製油原料、第三に食料、第四に飼料と恁ふ四種類に大別することが出來るものと思はれます。從ひましてその何れの方面から考へましても、滿洲特產物に關する限り日本の農產物と拮抗するものは甚だ尠い。むしろ經濟的に十分統制をとつて行く可能性が多分にある。玆に於て我が國民は共存共榮の立場からつとめて滿洲特產物を利用し、これに依つて滿洲國民に購買力を附與し、日本商品の最大發展地たらしむるに努めましたならば、日滿兩國民は眞の福祉を得られるものと確信して疑はぬ次第で御座います。尙細かい點に關しましては座談會の節にゆづり、私の講演はこれを以て了りたいと考へます。甚だとりとめのつかぬことをしかも興味のない話を長々と辯じまして御靜聽を煩はしましたことを謹んで御禮申上げます。

（終り）

滿洲國の貿易と關稅に就て

滿洲國商務秘書官　內海幹一氏

私は先程御紹介を戴きました滿洲國の商務秘書官として大阪に駐在致しまする內海でございます、今日は御忙はしいところを貴重な時間を御割き下さいまして、こゝに滿洲國の貿易の一端に就て御聽きくださいますことを厚く御禮申上げます。

貿易と申しますと話が少し片寄りまして興味も薄すからうと存じますけれども强て一度話せよと云ふ御希望でありますし、のみならず御當縣に於きましても多年の懸案でありました釜石の開港が愈々實現致しまして、さうして特殊の關係でありまするけれども、既に昨年中に輸出入約六百萬圓と云ふ數字を擧げて居ります、又本年の三月までに早くも三百萬圓近くの貿易額に上つて居ると云ふことでありまして、岩手縣としても直接に外國貿易の出口入口を御持ちになつたのですから、斯樣な機會に於きまして滿洲と日本との間の貿易に就て御話し申上げると云ふことも、全然無駄なことでもなから

うと存じて御引受いたした次第であります。

貿易の重要性と云ふことは私がこゝで改めて申上げるまでもないことでありまするが、日本は過去數年の間に於きまして貿易上非常に躍進いたしまして、各國から今や目の敵にされて居ります。それにも拘らず世界到る所に進出して將に世界の王座を占めて居るやうな狀況であります。勿論貿易の數字から申せば世界の貿易額の僅かに三パーセント位にしかなつて居りませぬから、數字の上に於きましては多いとは云ひませぬけれども、兎に角年を逐うて躍進の趨勢を示して居ると云ふことは皆さん御承知の通りであります。此の貿易の重要性と云ふことは要するに自分の國にない物或はあつても比較的有利な物を買つて、さうして向ふの國にない物を或はあつても比較的不利な物を輸出する。卽ち有無相通ずると云ふことを根本的な建前として成るべく輸出を多くし國際收支上受取勘定となつて自分の國に富を持つて來るといふことにあると思ひますが、滿洲國に於て貿易の重大であると云ふことは、此の外にもう一つ大きな理由があるのであります。それは滿洲國の財政の上に於て貿易から得るところの關稅收入と云ふものが非常な大きな數字を示して居ると云ふことであります。卽ち滿洲國の經常歲入は、多少の違ひはありませうが一億五六千萬圓程度であります、其の內で關稅收入は約八千萬圓になつて居ります。卽ち國の經常歲入の五割が貿易の齎らす關稅收入で占めて居ると云ふことは

滿洲國に於ては關稅は日本などゝ比較しまして國政に一層切實なる關係あることが察せられるのであります。日本の豫算は二十三四億圓の內一億三四千萬圓が關稅收入でありますが、滿洲國に於ける關稅收入の地位は斯樣に重要である、大きく云ふと關稅收入が失はれるならば、滿洲國を建てゝ行く基礎を危くすると云つても宜い位であると存ずるのであります。

滿洲國は御承知の通り、昭和七年に獨立致しましたが、非常に幸ひなことには、滿洲國の關稅と云ふものは、今を去る八九十年前から專ら外國人の管理の下に在つたのであります。それは外國が關稅を擔保と致しまして、鐵道を起すとか其の他の借款に應じて居りました爲めに、之を保全する方法として關稅收入は全部中央政府に送つて居つたのであります。流石に力の强かつた張作霖及び張學良の時代に於きましても、關稅收入には手をつけることが出來なかつた、卽ち總稅務司と云ふ首腦部の外に幹部は殆んど外國人であるやうに、條約上で決めて居りました、勿論日本人も入つて居ります。斯樣な譯で滿洲國が獨立した時に於て、數千萬圓と云ふものは多分三千萬圓位でありましたが之が稅關と共にすつかり滿洲國に入ることになつた。そこが滿洲國の財政の强味でありまして、獨立後三年を經過して、貿易は漸次躍進を致しまして、關稅收入は三千萬圓から今日では八千萬圓に上りました。それが爲めに歲計の上に於て別に借入金をしないでも、立派に賄つてゆくことが出來る狀態であります。租稅の主なるものは關稅收入は八千萬圓、鹽稅二千萬圓是れも昔から外國の借款の擔保になつて居りまして相當確實な稅金であつたのであります、其の外に一般內國稅が四五千萬圓あります。滿洲國では現在日本のやうに所得稅と云ふものがありませぬ、相續稅と云ふものもありませぬ。地租と云ふものはありますが、其の外は大體消費稅關係であります。斯樣に關稅が國の歲入の五割を占めると云ふことは、如何に滿洲國に於ては之を生み出す貿易と云ふものが、日本などよりも一層切實に重要であるかと云ふことを示して居る譯であります。

そこで滿洲の現在の貿易はどう云ふ風になつて居るかと云ふことを其の內容に就て少しく申上げますると、康德元年卽ち昨年度に於きまして、輸出は四億四千八百萬圓、輸入は五億九千三百萬圓で、差引入超は一億四千五百萬圓になつて居ります。是れは數年前と比較して見ると、輸出は大體この二年間變つて居りませぬが、滿洲國にならない以前の最盛時に比べまするとと、約三億圓位も減つて居ります。輸入の方は特に日本との關係が重でありますが、年々非常に躍進いたしまして、昨年は今申しまする通り約六億圓と云ふ狀況になりまして、是れは事變前に較べますると相當の增加になつて居ります。併しながら從來滿洲國の貿易としては農產物を多く輸出して輸入の方が寧ろ尠ないと云ふ出超狀態卽ち貿易上受取勘定であつたのでありますが、今申す通り昨年の如き入超一億四千五百圓となり

形勢は全く變つて居ります。輸出の減退した理由は一つには農村の疲弊と云ふこと、農産物價額の下落したと云ふこと其の他治安の關係もありますが、一方輸入の方に於きまして、滿洲國の諸般の建設事業が著々として進んで參ります爲めに急激に增進した、それで斯う云ふ結果になつたと思ひます。從つて滿洲國としてはどうしても從來のやうに出超國になる、即ち受取勘定にならないと、本統に大多數の農民の富が增し、王道樂土の理想の實現が得られないのぢやないか、斯う云ふ風に考へられますが、併し輸出の減じたと云ふことは先刻申しました通り、農產物が下落するとか、或は近年斷えず洪水があつたとか、或は治安關係が整つて居らぬと云ふやうな變態的理由に因りますので、それらのことが漸次改善せられましたならば、將來に於ては輸出がもつと增加し國際收支が順調になると思ひます。

輸出入の內容に就て申しますると、輸出品に於きましては大豆が最も重要な物でありまして是は一億六千萬圓に上つて居ります。其の次は豆粕五千百萬圓、石炭四千二百萬圓、粟が二千萬圓出ます、是は全部朝鮮に入つて朝鮮人の食料となります。其の次は大豆油千六百萬圓、落花生千四百萬圓、鐵壹千萬圓、此等が輸出品の主なものであります。次に輸入品としては、一番大きいものは國民の必需品であるところの綿織物でありますが、是は六千八百萬圓に上つて居ります。次は鐵及び鋼材の五千八百萬圓、小麥粉五千七百萬圓、車輛是は鐵道などの車輛其の他自動車もありますが、之が三千百萬圓、器械類二千八百萬圓、油二千百萬圓是は燈油揮發油等であります。次に木材千七百萬圓、麻袋は千六百萬圓、其の他砂糖、綿絲、絹織物、毛織物、棉花、紙などは壹千萬圓前後の物であります。更に貿易の對手國は何處であるか即ち貿易を國別に就て見まするとと、昨年度に於きましては日本への輸出は二億千八百萬圓、輸入は四億八百萬圓であります、即ち輸出の方は約五十パーセント輸入は約七十パーセントが日本との貿易額であります。これを以て見ると如何に滿洲と日本との經濟的聯關が密接であるかが判ると思ひます。而も之は年々增進して居ります。前年とは輸出は餘り變りありませんが、輸入は六十パーセントで十パーセント增えて居ります。斯う云ふ風に兩國の關係が段々濃厚になつて參つて居ると云ふことは、數字の上からも窺知せられるのであります。次に大きいのは矢張中華民國でありまして輸出は六千六百萬圓、輸入は五千七百萬圓であります。次はドイツで、輸出は五千三百圓、輸入は千二百萬圓となつて居ります。ドイツへの輸出の多いのは從來から大豆が餘程出るのであります。それからアメリカが輸出六百萬圓。輸入三千六百萬圓。ロシヤは輸出八百萬圓、輸入五百萬圓、斯う云ふ狀態で國別から見まするとと日本は斷然各國をリードして居りまして、而かもそれが先申す通り年々殖える傾向にあることは御同慶に堪へない次第であります。

斯樣な貿易を司る所は御承知の通り稅關であります。此の稅關は申すまでもなく獨立前までは中華民國稅關でありましたが、昭和七年の六月卽ち建國の年六月に稅關を全部滿洲國は全く接收した。是れは大連の稅關を始めとして日本人が多く居りますから、全く圓滿に武力等を用ふることなくして、其の儘滿洲國に接取する事が出來たのであります。爲めに先刻申す通り建國の歲計の切盛りの上に於ても大變に都合が好かつたのであります。唯今では八つの稅關があります、最も大きいのは大連、次に安東是は朝鮮との國境に在ります。更に遼東半島の向側に營口と云ふところがあります、是は矢張り昔からの開港場で相當大きく此の三つは海に臨んだ稅關であります。其の外にハルピン、それから熱河省の承德、此所にも稅關を置きまして、北支那との間の貿易を司つて居ります。それから北支那の方に下つてゆきますと山海關、此處にも稅關を置いて居ります。それから朝鮮の北の豆滿江の對岸に參りまして圖們と云ふところがあります、淸津との間の鐵道が聯絡して居ります。更に其の上流の稍奧に龍井村があります。右八箇所に稅關を置き、其の外日本の稅關支署等に相當する稅關分關等を多數置いて居ります。

滿洲に於きましては產業が未だ日本のやうに發達して居らぬことは御承知の通りでありまして、從つて日本に於ては外國から來る貨物に付ては、關稅を相當高くして輸入を防ぐと云ふ所謂保護貿易政策を採つて居りますが、滿洲國の產業の狀況は其所まで參つて居りませぬので、保護關稅を設けると云ふ迄にはなりませぬ。卽ち滿洲の關稅は所謂財政關稅で、專ら收入を擧げる爲めの目的の者であります。而して其の額は前申した通り約八千萬圓でありますが、其內譯を申しますと、輸入稅が約六千萬圓、輸出稅が千三四百萬圓、日本などに於きましても元は輸出稅があつたのでありますが、是は今廢止されましたのみならず、世界各國に於て輸出稅を置くところは殆んどない、結局輸出稅を置くと云ふことは、其の國の產物の價額を高くして、輸出の障害になるからであります。滿洲國に於ても出來るだけ輸出稅を早く廢止したいと云ふ方針でありますが、何分今の處關稅と云ふものが國の歲入の上に於て極めて重要であります爲に、今直に此の輸出稅を失ふと云ふことは容易ならぬことであります。併し將來は成るべく速になくすると云ふやうな方針を以て進んで居ります。その外に賑災附加稅と云ふものを置いて居ります。是は輸出稅にも輸入稅にも其の五分を取るのであります、是は約三百萬圓位あります。その外に轉口稅、噸稅と云ふものがあります、之は百二三十萬圓になつて居ります。此等を併せて八千萬圓に上つて居りますが、此の數字は今日までの形勢に依りますとまだ〳〵增加してゆくやうな傾向であります。此等の貿易の狀勢に鑑みまして滿洲國に於きましては目下銳意稅率の改正に就て案を練つて居りますが、それは要するに滿洲國の稅關と云ふものは、民國から其の

儘接收しましたが、税率に就きましては、本來ならば接收と同時に、滿洲國に最も適するやうな風に樹てまして、税金を取るのが建前でありますけれども、此の税率を作ると云ふことは種々の基本調査を要し從つて相當時日を必要としますので取敢ず民國の制度を踏襲致しまして、その後一昨年と昨年の二回に亘つて著しく不適當と思はれるものにつき部分的改正を加へて只今に及んで居りますが、是は日本との關係は段々密接になり、日滿經濟ブロックと云ふことが叫ばれて居るのでありますから、それ等諸般の狀況に顧みて將來種々産業經濟の上に都合の宜いやうに又、通商上の障害を成るべく尠くするやうに、關税の改正を行ふことで只今折角調査中であります。恐らく一兩年の内には其の改正が行はれるかと思つて居りますが、さうなると日本と滿洲との貿易は今までよりは尙一層圓滑になり其の躍進を見るであらうと考へて居ります。甚だ雜駁な話でありましたが、以上滿洲國に於ける貿易の大體を申上げて私の責を塞ぎたいと思ひます。

（懇談會速記省略）

朝鮮支部滿洲事情懇談會記事

昭和十年六月二十五日

○座長（賀田直治君） それではこれから日滿實業協會朝鮮支部の懇談會を開きます。開會に先立ちまして一言御挨拶を申上げます。

朝鮮商工會議所の定期總會を機と致しまして、日滿實業協會朝鮮支部の懇談會を開くことになりまして、司會者側の私から一言御挨拶を申上げまする事は、洵に光榮と存ずる次第であります。

閣下並に各位には御多忙中且つ暑い折柄に拘らず、多數御來臨の榮を得ましたことは、當協會並に支部の感謝に堪へない所であります。殊に總督府よりは外事課の楊事務官、滿鐵本社よりは鶴岡貨物係主任のお出でを願ひまして、懇談會に於て御説明を承ります機會を與へられましたことは、我々の衷心から感謝する所であります。

我が日滿實業協會は、去る昭和八年八月、大連に開催されました滿洲大博覽會主催の、日滿實業懇談會に於て、滿場一致の決議に依り成立ち、日本商工會議所が主としてこれが中心となつて、斡旋の

勞に當り、昭和八年十一月、東京に於て創立總會を開催し、同年十二月一日から業務を開始し、本部を東京に、支部を滿洲に置きまして、滿洲國政府、拓務省、對滿事務局、軍部、滿鐵、その他內鮮滿の有力なる團體並に個人の多數の支援援助を受けて成立したのでありまして、その目的とする所は、日滿經濟の提携を促進し、滿洲國の經濟建設に協力し、兩國の共存共榮を圖る目的の下に、日滿經濟提携に關する方策の審議、建議及び諮問の答申、日滿產業經濟に關する調査、統計の編纂、通報、並に仲介斡旋、その他日滿產業經濟關係者の懇親友誼を厚くするやうな事項に對して精々努めたいといふ方針で、目下着々實行中であるのであります。この朝鮮と致しましては地理的に日滿間の楔位にあることは勿論で、本協會の目的遂行には、重大なる役割を課せられてをる關係で、本年四月一日に、鮮內會員百一名、口數百九十四、一口は一ヶ年二十圓になつてをります。この百九十四口を以て朝鮮支部を設立し、鮮滿關係の事項に對しては特に力を注がんとしつゝあるのであります。

朝鮮支部は設立後日尙淺いのでありますから、十分とは申されませんが、今着々仕事をやる準備をして、事務員には支那語の出來る人間を入れまして、目下朝鮮產業案內などを支那文に譯して、近く出版する段取になつてをります。又色々の世話を支那語を應用してやることにしてをります。その後幾分會員が增加しまして、現在では百十二名、口數二百八になつてをる次第でありまして、遠からず本部との約束になつてをります二百五十口迄は何とかして作りたいと思つてをります。會費の八割迄は朝鮮支部に吳れることになつてをりますので、それに依つて一と廉の仕事をしたいといふことを希望してをる次第であります。不肖私が常務理事で支部の仕事をやつてをるのであります。伊藤理事が支部の幹事となつて世話を燒いてをるのであります。會議所でも補佐して支部を活かすやうに努めてをる次第でございます。

本日この懇談會を開きまして懇談を願ひまする第一の問題の、滿洲に於ける鐵道の運賃に付ては、鮮內にも色々希望がありますので、始終陳情なり建議なりをしてをるのでありますが、この問題が重要であると考へまして、これらの民間の意向の集まる所も話を致し、尙ほ皆樣のお話を伺つて、この問題に關する知識を高めたいといふのが一つの目的でございます。

それから第二は、今後に於ける滿洲國の開發には、是非とも朝鮮人が主として移民して行かなければならぬといふことは明かなことでありまして、今總督府に於ては、在滿朝鮮人に對して、安全農村のやうなものを作つてをられるので、それらの成績を承つて、今後地理的に自然の流れとして、こちらから滿洲に朝鮮人が移住するのが合法的でありますが、その時期、方法等は今後朝鮮の重要問題と考へますから、その既設の安全農村などの事情を楊事務官から承りまして、我々の觀念を助けたい、

かういふことを望んでをる次第であります。唯生憎に時間が三時迄で、その後に朝鮮工業協會の總會があり、こゝにをられる方々が多くそちらに出席されますので、時間の關係上十分盡し得ぬ所があると思ひますが、どうか要旨を摑んで御懇談を願ひたいと思ひます。又楊事務官並に鶴岡氏は折角のお越しでございますから、一つお話をお願ひして、共々に我々の研究促進に資することが出來ますれば、この懇談會を開いた目的に叶ふ次第であります。これを以て御挨拶なり希望なりに代へまして、これから第一の滿洲國に於ける鐵道運賃問題に付て懇談會を開きたいと思ひます。朝鮮の民間の意見を代表する位置に立つてをられる朝鮮貿易協會の工藤常務理事にそれらのことを簡明にお話願ひたいと思ひます。

○工藤三次郎君　私は朝鮮貿易協會の工藤であります。時間の關係がありますから、僅か五分間位、私共の常に要望してをります點を申上げて、それに對する御意見を拜聽致したいと存じます。

最近朝鮮の產業は非常に發展致しまして、生產コストに於ては決して內地の品物に劣らないといふ點迄參りましたので、滿洲の市場に內地品と競爭致しまして、地理的に必ず有利な事になければならぬと考へます。所が非常に接近はしてをりますけれども、主として朝鮮の地勢の關係上、滿洲に品物を送る場合には、鐵道を利用しなければなりません。その鐵道の距離が長い關係上、內地の阪神市場から大連を經由して行く物に比して、非常に高い物になつてをります。それが爲に非常に不利益な立場にあるのであります。殊に常に問題となるのは安奉線の運賃であります。朝鮮鐵道は朝鮮產業開發の爲に、常に色々運賃政策を設けまして、貿易品に對しては特に考慮をして下さつてをりますけれども、滿洲にはいるには必ず朝鮮鐵道を經由し、安奉線を經由しなければならぬことになつてをるのであります。一方京圖線の方も最近經由するやうになりましたけれども、まだ多くは安奉線を經由しなければならぬ狀態であります。然るに安奉線の運賃は非常に割高になつてをります。夫は奉天、大連間の運賃と比較致しまして、キロ當り三割四分の高率になつてをります。これでは到底內地から安い船運賃で滿洲に持つて行く品物と比べて、朝鮮は常に太刀打が出來ない狀態になつてをりますので、朝鮮に於ける貿易業者は、是非安奉線の運賃を大連、奉天間の運賃の率に下げて頂きたいと多年叫んでをります。貿易協會に於きましても、過般その事を決議し、滿鐵總裁に對して要望してをります。その要望をこゝで簡單に申上げますと、第一にこれは鐵道の經營を異にしてをる關係から來る譯でありまして、運賃が高いばかりでなく、運賃の基礎を大部異にしてをる爲に、色々計算が煩瑣で手數がかゝる。それから同一型の貨車でありましても、最低重量扱のものでも、最低瓲數が異つてをります關係上、朝鮮から假りに十六瓲、最低瓲數の品物を送つても、それも積めれば差支ないけれども十六

瓲以上は積めない品物でも滿鐵線にはいりますと最低瓲數が二十瓲、二十二瓲になつてをりまする關係上、それだけ空瓲の運賃を拂はなければならぬといふやうな不合理があるのであります。それから貨車の配給關係も常に圓滑を缺いてをります。それから內地から送ります荷物、これはまだ朝鮮では實際に行はれてをりませんけれども、例へば混載車扱、內地方面は、三線連絡荷物として、混載車扱が行はれてをりますが、朝鮮はそれに對し相當な割引を致しまして、さうして安東に送つてをりますけれども、滿洲の方ではこれを認めてをらぬ關係上、積替へなければなりません。その儘送りますと最高等級の運賃を拂はなければならぬ關係になりまして、折角この內鮮連絡に朝鮮鐵道が便宜を與へてをりますが、以上の結果その效果が非常に減殺されてをります。又安東の設備が色々不完全な爲に、通關その他の爲に荷物を卸しまして、それから通關が濟んで、再び積込んで送るのに、非常な手數と日數がかゝることに現在なつてをります。兎に角內地と滿洲との、時間的に最短距離にある朝鮮鐵道と安奉線が、さういふ具合に圓滑に行つてゐないといふことは、これは日滿經濟上、特に貿易上、非常に打擊であると考へまして、この點是非改めて頂きたいといふことを、貿易協會から要望してをるのであります。特にこの安奉線が高いといふことに付ては、色々と大連中心主義とか、或は營口、安東、大連の三港に對する海港發着運賃制等の關係から、容易にそれを改めることが出來ないといふことを承つてをりますけれども、安東を開港場と見て他の方面と比較して貰ふことは、非常に間違つてをりはしないか、安東は港でありますけれども、大きい船があそこにははいらないのであります。それで安東驛から本船に運ぶのに非常に高い艀賃を拂はなければなりません。大連や營口と同一視することは出來ないのであります。滿鐵は安奉線を連京線と同率にすれば大連の繁榮に影響すると申して居りますがこれは全く杞憂であります。假に安東線を無料にしても內地品は大連經由の方が問題にならぬ程安いので大連には何等の影響ないと信じます。その點を十分御考慮願つて頂きたいと考へてをります。それから朝鮮鐵道を利用して安奉線で滿洲にはいる荷物は、これは殆ど日本の生產品と見て差支ないと思ひます。これに反して大連は日本の品物が大部分ではありますが、尙ほ外國の品物も澤山通過するのであります。外國の物を安い運賃で運び、日本の物を高い運賃を取るのは、相當考へなければならぬことだと思ひます。又朝鮮鐵道、安奉線、これは日滿の大幹線でありますから、軍事上、國防上大事な線である。常にこれを多く利用して改善を加へて置かなければならぬと言はれてをりますが、現在のやうに運賃が高ければ、自然これを利用する者が少くなり、從つて改良改善を加へることが出來なくなりはしないかと考へてをります。この點十分御考慮下さいまして、是非この點改正して頂きたい、それには安奉線を大連線と同一賃率にして貰ひたい。更に又內鮮滿連絡運賃を

制定して貰ひたい。即ち運賃の基礎が違ふ爲に計算が非常に煩瑣であるから、大都市と大都市との區間の運賃は一定の賃率を滿鐵と朝鮮鐵道が協定して決めて頂きたい。それから車扱運賃計算最低重量は、朝鮮鐵道と滿鐵と同樣にして貰ひたい。それからこの局社線相互間の貨車の配給連絡を圓滑にして、輸送日子を短縮して頂きたい。これには安東驛に於ける設備の改善、それからあそこで通關事務を滿鐵の方でやつてをられますが、この點もう少し人を殖やして敏速にやつて頂きたいといふことを、この前に書面を以て滿鐵の方にお願ひして置きましたが、是非この點を考慮して頂きたいと思ひます。これらの改善に付て御意見を承りたいと存じます。

○座長（賀田直治君）　それから鶴岡さんに一つお話を願ひたい。鶴岡さんは滿鐵の貨物係の主任でありまして、今回特に御出席下さいましたのであります。

○鶴岡壽君（滿鐵貨物係主任）　私は只今御紹介を頂きました滿鐵貨物課の鶴岡と申す者でございます。今度當地で開催されます日滿實業懇談會で、社の安奉線の運賃その他一般運賃問題について色々朝鮮方面に意見があるし、説明を聞きたい希望があるから、誰か社から出て來たらどうかといふことを、日滿實業協會の滿洲支部からお話がございまして出席致しました次第で御座います。實は社と致しましても、此運賃に就きましては、今日始まつた問題ではなくずつと以前から論議されてをる問題でございますし、外部から見られて、滿鐵の運賃が不合理だと思はれる點があるかも知れませんが、滿鐵がどういふ譯で、今の運賃を實施してをるかといふことを斯う謂ふ機會に詳しく申上げて、そして十分に皆さんに御理解を得て頂きたいといふことは、常々考へてをりますので、喜んで出席致しました次第であります。

然し運賃の御話は割合に複雜なものでありますから出來れば極く大ざつぱに、現在滿鐵の經營してをります運賃構成の概要をお話申上げた上、今回の具體的な問題に移つた方がよいと考へますが、時間にも制限がありますからこの點は省略致して、直接御提案の問題に對する社の考を申上げ度いと思ひます。

先づ第一が安奉線の運賃問題であります、これまでにも數回に亙つて安奉線の運賃が高いと云ふ御意見を承つてをりますが、それにつきましては、一番最初に現在の大連發著特定運賃はどういふ譯で作られてをるか、といふことを一と通り申上げたいと思ひます。

日露戰爭後に社が開業致しました當初、社線と致しては、その時には開港として營口と大連があつた譯でありますが、營口は御承知の通り冬期は氷結して利用することが出來ませぬ。そこで大連を利用する外ありませんが、大連は營口よりも奥地からは二百二十キロも遠距離にある。從つてもし社が

何等その間に運賃上の施設をしないときは、その間に運賃に相當な開きがありますから、少くとも營口港が開かれてをる間は、運賃採算の安い營口經由で取引されるでありませう、そして冬分になりまして、港が凍りますと、實際問題として營口は利用されませぬから、已むを得ず大連を利用する。處が此の場合營口經由との間には相當運賃の開きが生じて來る。即ち營口の開港中に品物を送くる場合と、氷結した場合の運賃採算は非常に違つて來る。これは商取引を非常に混亂させるもので商賣上の大きな障害となることは明かであります、そこで會社としては港といふものに餘り捉はれず、輸出入するものの運賃採算が、凍結中であるとか、ないとかいふやうなことで、採算を異にする樣なことがなく、いつでも大體不動の採算で取引出來るといふことでなければ、商取引上に非常に不便がある、その不便を除去するには奥地から大連及營口に至る運賃を陸上を同額にするか、それでなければ、主要な取引地例へば阪神地方を目標として、そこまでの一切の運賃諸掛が同率となる樣に、海港と仕向地間の船運賃の差迄を見込んで、陸上運賃を適當に特定調節せなければ、どうしてもいけないといふやうな見地から設けられたものであります。從つてこれは結局輸出入貨物に對する商取引上の便宜を圖る爲めに、目論まれて今日に至つてをる譯でございまして、特に滿鐵が港灣自體の待遇を一、二にすると謂ふ樣な考から設けた運賃では勿論ないのであります。

その後、安奉線が開通して、その間色々に紆餘曲折がありまして、現在の安東發着特定運賃率が出來てをるのであります。先程、安東は開港としては大連の敵ではないから、安東發着特定運賃率を現在より引下げても一向差支ないだらうといふお話でございましたが、これは安東發着特定運賃の沿革を見ても分るやうに、素々社としては大連の特定運賃率の樣にはつきりした基礎なり根據はないのでありましすから、只大連に對する割引の振合上安東發著のものにも割引を均霑させると云ふことで、蘇家屯・大連、蘇家屯・安東間の距離の比、其の他から現在の特定運賃率を算出したに過ぎないのであります。

そこで御希望の今の安東發著特定運賃率を大連のそれと廼籽當同率にしたらどうかといふ御意見でございますが、會社と致しましては、この安東と大連とは奥地からの距離が相異つて居ります。奥地から安東・大連に至る所の距離は大連の方が安東よりも百二、三十キロ遠いのであります。鐵道では一般に貨物運賃の遠距離遞減即ち遠距離輸送のもの程、その一單位距離當の基礎賃率を割安にする方法を採用してをります、これは鐵道運賃の基礎をなす所のコストの上からも十分理由が立つ、或る意味に於て、當然さうなければならぬのであります。そしてこの遠距離遞減を採用することは、必ずしも普通運賃率に限られるものでなく特定運賃率に就ても同樣に考へなければならないことは言ふ迄も

ないのであります。

今社線の運賃についてその點を考へますと、實は社線の遠距離遞減率は、割合に小さいのであります。この點内地方面の荷主さんから屢々お小言を頂いてをるのでありますが、鐵道省や、朝鮮に比較しても少し社の遠距離遞減を増大したらどうかと言はれてをる樣な狀態であります。

そこで今のやうに經費の點、或は運賃負擔の公平といふやうな點から、遠距離輸送のものが比較的低率の瓲粁當運賃率の適用を受けることは當然でありまして、從つて奥地から短距離に在る安東の運賃率を遠距離輸送である大連と同一基礎に立つ運賃率の適用を受けたいと云はれることには、無理があると思ひます。

加之、大連を對照としてのお話でございますが、大連の運賃を割引してをりますのは、先程から申しましたやうに、これは對營口との關係に於て、社が輸出入貨物の取引上の便益を圖る必要上設けた特殊の運賃率でございますが、今直ぐにこれを同じ瓲粁運賃率にすることは實際上からも困難な問題でございます。若し運送距離の差を度外視して安東の運賃を大連と同一の瓲粁率に下げるとすれば、營口からも亦同樣な希望が出て來ると思ひます。そして結局は大連も營口も安東も皆同じ基礎に於て運賃を作るとすればこれは所謂距離比例運賃と謂ふことになつて了ふのでありまして、これをやりま

すと、一見公平な樣でありますが、折角今迄社が輸出入貨物商取引の便宜の爲に作つてをる特定運賃率は實際なくなり、却つて商取引に惡い結果を及ぼすこととなります。でありますから安東を大連と同一瓲粁運賃率の上に置くと云ふことは、理論上からも實際上からも會社としては贊成致し兼ねる次第で御座います。

尙ほ此際一言附け加へて置きたいことは、社は大連中心主義で、他の海港に差別待遇をするといふやうな御意見を時々耳に致しますが、社としては今日に於きましては既に葫蘆島の築港が計畫され、東には北鮮に築港が完成されるといふ實狀でありまして、決して大連を主として、他の港を差別待遇するといふ樣な考は毛頭有つて有りませぬ。社の現在開港に對する考へは、それ〴〵開港がちやんと一つの背後地を有つてをりまして、それ〴〵の使命を有つてをる。從つて例へば熱河方面の物産は將來葫蘆島に輸出入されるやうになるだらうし、又東滿洲の荷物は北鮮開港に……今後取引機關が整つて來たならば……集まるのが當然であると考へるのであります。

右のやうな大體の事情でございまして、色々社としても特に安東の運賃を下げ度くないといふ意識的な考へは有ちませぬけれども、先程申しましたやうな種々の點から考へまして、安奉線の運賃率を大連、營口の運賃率と同じに引下げろといふことは、どうも社として實行致しかねるのであります。

一つこの邊は篤と御諒承を願ひたいと思ひます。

第二の問題は鮮滿間の直通聯絡運賃を設けて呉れといふお話で御座います。社としても滿洲が以前の情勢とは變つて參りまして、日本の對滿貿易振興は非常に重要なことでございますから、運賃上之れに順應した施設を致すことに就ては常に研究致して居ります、直通運賃等も出來れば、さういふことにやつたらよからうと考へてをる譯であります。併しながら滿洲國は機會均等、門戸解放といひますか、各國に對して平等の待遇をするといふことを公表して堂々とやつてをりますから、以前ワシントン會議の結果廢止された二線連絡運賃、三線聯絡運賃といふやうなものを作つて、日本内地發着とか、或は朝鮮發着とかいふものだけに限つて特殊な割引をすることは、適當でないと考へて居ります。勿論見方によりまして、この點は既に今日はそこまで遠慮する必要はないぢやないかといふ御意見もあると思ひますが、社としてはもう少し時機なり方法なりを研究させて頂き度いと思ひます。

第三は車扱運賃の最低重量を局社同一にして呉れといふお話でございますが、これは實は社としても一緒にしたいと考へてをります。只然し一緒にすると謂ふてもどちらに統一するかが問題であります、これは少し專門的な話になりますが、貨車一車に荷物を積み、機關車で引張つて送ります際の鐵道の經費……さういふ點から眺めますと、實は重量品を積んでも輕量品を積んでも其の間大差はないのであります。從つてこの點から見れば減瓲する餘地は割合に尠いのでありまして、寧ろ現在の最低扱瓲數は、低く過ぎると思ひます、然し現在の貨車は大體重量品本位に作られてをる樣でありますから、鐵道としては相當思ひ切つて十四瓲とか十六瓲と謂ふ樣な處迄減瓲して居るのでありますけれどもこれは餘りに低過ぎる樣に考へますので、社將來の方針としては、寧ろ多少なりともこれを引上げたいと考へてをります。處が茲での實際の御希望としては、恐らくは社よりも朝鮮局線の最低瓲數は更に一瓲低いから社の方を引下げてこれに統一して呉れといふ御希望ぢやないかと思ひますが、もしさうだとしたならば、社としては現在よりも下げることには贊成致し兼ねるのであります。統一は結構ですけれども、今より下げて統一することは一寸困難な問題だと思ひます。

第四は社線向の貨車の配給が圓滑でない、輸送日數がかかつて惡い、通關設備、取扱ひが面白くないから、もう少し改善して呉れといふお話でございます。これにつきましては、社としては日常十分その點心掛けてをりまして、先達て安東で非常に遲れるといふお話でありますので、私のはうから早速人を安東に出しまして種々調査もし、出來るだけ改善致してをるつもりであります。最近私の課に報告が來て居りますものに依りますと、相當中繼時間は短縮されてをります、然し決して之で滿足すべきではありません、社としても尙さういふことに心掛けたいと思ひます。歸りましたならば、もう

一度私のはうでも調べて見たいと思ひます。改善すべきことがございましたならば、その點は大いに改善したいと考へてをります。

以上甚だ纏りのないことばかり申上げまして貴重な時間を取りまして申譯ありません、これでお話を終ります。（拍手）

○**座長**（**賀田直治君**）　序に朝鮮商工會議所で希望してをる事項を伊藤理事より一寸お話願ひます。尙ほ皆樣の方で申上げるやうなこと、御意見等ありましたらお話を願ひます。

○**工藤三次郎君**　只今のお話では營口線との關係に影響を及すといふことが理由になつてをるといふやうに思ひますが、營口に就ての私等の認識してをるのは、大部距りがあるとは思ひますが、營口に來る物は大連に上げて差支ないのでありまして、營口に集まる範圍は狹い。夫に反して安東は、朝鮮とか內地とかいふ、非常に大きい地域に關係してをります。それで營口線との關係が理由になるのはどうかと思ひます。安東は朝鮮、內地に影響するのであります。この點十分お考へ願ひたいと思ひます。

○**鶴岡壽君**（滿鐵貨物係主任）　お答申上げます、その點は少し話が理窟つぽくなりますが、私の申上げましたのはさういふ意味ではございません。あなたのお話で、奉天なり新京から大連に至る運賃率も安東に至る運賃率も其の瓲粁を同じやうにしたらといふお話でありますから、さういふことになると之が營口に影響して營口も默つては居らぬ結局は社線全體を同じ運賃率で行かなければならぬ。言ひ換へれば現在のやうな特定は全然やめろといふことになるだらうと思ひます。さうすると全體が結局同じ距離比例になりますから之は大連の運賃が特殊な理由から出來てをるといふ建前から申しましても、そう云ふことは出來ないといふ意味であります。

○**伊藤正懋君**　一寸御說明申上げます。朝鮮商工會議所總會が開かれまして、滿洲に於ける各鐵道運賃率が問題の一つとなつて現はれてをるのであります。この問題に就きまして、色々審議の結果五つの項目を揭げまして、朝鮮總督府に御配慮を願ふことに相成つたのであります。この中には只今お話を承つた點も無論でございますし、又滿洲國全體の鐵道、卽ち滿洲國々有鐵道と滿鐵、この二つの線の連絡統制といふことも含まれてをるのであります。この五つの項目を一々御說明申上げると甚だ時間がかゝりますので簡單に項目だけ申上げて、この機會に鶴岡さんに特に御願申上げたいと思ひます。第一は滿洲國々有鐵道の運賃率と滿鐵社線の運賃率とを略同一程度ならしむること。滿洲國々有鐵道の賃率は滿洲國幣に依つて運賃率を決めてあり、滿洲社線の方は、先程お話の通り金建を以て決められてをるのであります。これを同一にすることは金建銀建の關係上不可能でありますけれども、

或る程度迄同じやうな程度にして貰ふといふ項目であります。次に安奉線の特定割引運賃率を連奉線の特定割引運賃と同一ならしむること、これは只今お話になりました安奉線の運賃率のことでございます。次に滿洲國々有鐵道の貨物等級別と滿鐵線の貨物等級別とを同じやうにして貰ひたい、かういふ項目であります。これも幾多不便がありますので、從來の沿革上直に引直すといふことは困難かも知れませんが、漸次同じやうにして貰ひたい。次は滿洲國有鐵道に、長距離遞減法を採用して貰ひたい。勿論これは滿鐵直接の問題でないかも知れませんが、滿洲國々有鐵道は滿鐵に委任になつてをります關係上お願ひするのであります。もう一つは內地海港への通し貨物の鐵道運賃と鮮內海港打切の鐵道運賃とを同格にして貰ひたい。これは主として北鮮方面に於きまして、內地の海港に行く貨物は非常に割引をされてをるのであります。計算しますと殆ど海の方は無賃で運送されてをるやうな割合になつてをります。朝鮮に止める物は割合に高いのでありますから、例へば工業原料を滿洲から送つて朝鮮で加工するよりも、寧ろ內地へ送つて加工することが容易でありまして、從つて鮮內の工業が振はない結果になるのであります。卽ち淸津がよくこの例に當つてをるのであります。さういふ點から通し貨物と鮮內打切の運賃を同樣にして欲しい。かういふ五つの項目が總會に依つて決議になりまして、朝鮮總督府に交渉方をお願ひ申すことになつてをります。その中に朝鮮總督府の方からも通牒があると存じますから、お歸りになりましたら、どうか宜しく御配慮を願ひます。

○座長（賀田直治君） 右樣の次第であります。時間の關係で運賃の問題はこれで遺憾ながら打切りにしまして、これから在滿朝鮮人の狀況に就て、總督府の楊在河氏のお話を願ひます。

○楊在河君（朝鮮總督府事務官） 時間がないやうですから極く簡單にお話申上げます。

在滿鮮人の分布狀況

在滿鮮人は百萬と言つてをりますが、實際外務省の調査によれば、昭和八年度末調で六十七萬一千五百三十五人になつてをりますが、調査漏も相當ある筈でありますから、其總數は約百萬人位であらうと思ひます。その中約四十五萬人は間島省內にをります。間島省は全人口五十六萬人ばかりありますから、その約八割を占めてをります。その他の者は滿洲國全體に散らばつてをるわけでありますが、その中最も多く住まつてゐるのは東邊道一帶、それからハルピン、綏濱線沿線（元東支鐵道東部線）方面に多く居るのであります。こんなところに居らずもつと廣いところに行つたら宜いではないかと想像されますが、朝鮮人で向ふに行つてをる者は主として水田をやつて居りますから、此等の地方は水田に最も適して居るからであります。この約百萬人の朝鮮人が滿洲に移住した歷史は相當永く

ありますが、御承知の通り事變前までは、所謂張家二代の惡政のために非常な苦痛を嘗めた。この苦痛を嘗め乍ら滿洲全體に於て朝鮮人が水田の試作をやつて呉れたのであります。これが滿洲に於て朝鮮人が貢獻して呉れた最も大いなる事柄の一つでありまして、今や滿洲國到る處に水稻作が出來る事は試驗濟であつて若し之を政府事業か何かで滿洲國全體に此の試驗をなすとせば、大した人員と金と又時間を要する事でせう。實に此貢獻たるや偉大なりと稱すべきものであります。

滿洲の水田と朝鮮人移民

上述の通り朝鮮人が滿洲に移住してどし〳〵と水田を開發して居りますが、之に對し相當有識階級の內地人間に杞憂を抱いて居る人がある。其理由とする所によれば、內地に於ても朝鮮に於ても米の生產過剩で困つてゐるこの際に朝鮮人が滿洲に行つて米をどし〳〵作られちやあ困る。さういふことは止めて貰ひたい、甚だしきは朝鮮人の滿洲移住は差止むべしだといふやうな偏見を爲す人がありますが、之は全く杞憂であり又甚だしき偏見であります。然らば滿洲には現在どの位米が出來てゐるか、滿洲の水稻は殆ど朝鮮人によつて生產されて居りますが其量は籾にして約百八十萬石、米にして約八十萬石位なものであります。これから朝鮮人が滿洲にどし〳〵行つて米を作るにしても、さう大して恐るべき數字に上るべきものではない。今迄各方面の調査に依れば大體從來の通りの水田經營をやるとすれば、卽ち朝鮮や內地の樣な米作に對する特別なる奬勵をなさず從來滿洲で朝鮮人が行て居る樣な方法で之を爲すとせば、先づ五百萬石乃至一千萬石位であらうといふ事であります。而して五百萬乃至一千萬石の米を作るためには相當な人間が這入らなければならぬ。また相當長い時間を要します。さういふ事情でありますから、朝鮮人の滿洲移住は米の問題に對して脅威を與へるものではありません。また現在の處置としても滿洲に移住しなければならぬと思ふのであります。

朝鮮人の滿洲移住の要

御存知の通り朝鮮は年々約三十萬人の人口が增加しつゝあります。その增加しつゝある人口が今まで內地にどし〳〵行つてをりました。內地には五十五萬人も行つてをるといふのでありますが、實數は百萬人に近いだらうと思ひますが之が爲に內地に於て色々と社會問題を起す爲に近頃內地行きを極端に制限してゐるのであります。これは同じ國籍を有するものに國內に於て居住制限をすることは甚だ不合理なことではありますが、併し內地の事情として之を制限するは已むを得ぬことゝ思ひます。それならば國としては此等に對して別に捌け口を考へてやらなければならぬのであります。それが爲

には滿洲方面の移住を容易ならしめる方法を考へなければならぬことになるので、中央政府に於ても朝鮮總督府に於ても之に對する計畫をいろ〳〵進めてをるのであります。

從來朝鮮總督府の在滿鮮人に對する施設

事變前朝鮮總督府は朝鮮人の滿洲移住に對し之を奬勵したる事もなく又之を制限したる事もなく只滿洲に行つてゐる者が困らぬ樣に領事館側等と力を合せて相當の保護施設をして來たのであります。其主なるものは敎育、醫療、産業及び金融方面であります。

滿洲事變後の施設

事變後にはこれを少し積極的に仕事をせねばならぬことになり、多少豫算を殖やしまして安全農村及集團部落の設置であるとか、敎育、醫療、産業其他金融等の諸施設的の擴充であるとか、また自作農創定であるとかといふ樣な事をやつてをります。

將來の施設

またこれから本格的に朝鮮人の移民事業をやらなくてはなりませぬが、新聞等にちよい〳〵出てをります樣に總督府では朝鮮人移民會社案を有してをりますが、果して何時實現することか分りません。併し來年度には出來るだけこれが實現すべく努力してをります。

安全農村及集團部落

茲で一寸集團部落及安全農村の事に付簡單にお話を申上げて見たいと思ひます。

安全農村と申しますものは、事變前から計畫はありましたが支那側の壓迫の爲に之を實現する事が出來なくて、事變後になりて實行することを得ましたのであります。總督府は資金の約三分の一を東亞勸業會社に補助しまして、それによつて土地を求め、家屋を造り、それに相當な必要な灌漑、排水工事を爲し、朝鮮農民を朝鮮から移住する者、滿洲内に於ける事變による避難鮮人又は事變の爲に朝鮮内に避難せる者等を收容してゐるのであります。その一番最初にやりましたのは鐵嶺の直ぐ下の亂石山といふ驛の西約半里ばかりの所にありまする鐵嶺農村でありまして、面積約七百二十町歩、二百五十戸餘りの者が這入つてをります。これは昭和七年度に始めましたもので今立派に出來上つて、農民は非常に喜んでをります。その次に昭和八年度にハルピンの東烏吉密河といふ驛から二里ばかり北

の地點を選びまして約二千五百町歩の土地を買ひ、これと同時に營口の西南五里程の處に約三千五百町歩の土地を買ひ、二大營口安全農村を作る事になりました。烏吉密河の安全農村は河東農場と言つてをりますが、これは以前共産黨及獨立團員等が水田を作つてをつたところでありますが、事變後それらの者が散らばつて、その後の土地を買つたのでありますから買收地の内には已に以前から水田として耕作して居つたのが約八百町歩もありましたから、八年度から直ちに水田として耕作する事が出來たのであります。昨年またその餘りの土地を水田化し今では約八百戸、四千人の朝鮮人が收容されてをります。また營口の方の土地は殆ど未墾地でありまして、八年度は避難民約六百戸を收容し土工に從事せしめ昨年卽ち九年度より水田耕作をやりましたが、その成績は非常に良くて、反當り平均收穫三石、最も良く穫れたのは反當り五石も穫れたのがあります。また昨年ハルピンの北で濱北線に綏化といふ驛がありますが、其驛の西側五里ばかりの所に綏化安全農村を作る事になりましたが、千百町歩ばかりの畑及未墾地を買ひ、之を水田となし鮮農約三百五十戸を收容しましたが、工事が多少遲れ自然播種の遲れたると又早霜の空で餘り成績が良くありませんでした。然し乍ら今年からは良き成績を擧げ得られるものと信じて居ります。

尙ほ十年度の豫算を以て約二千戸の朝鮮移民をやることになつてをります。これは營口農村及び綏

化農村の擴張、それから奉天省柳河縣三源浦に一個所を新に設置し、約二千戸の移民を實施する豫定であります。營口、綏化の擴張は今から土地を買入れ、來年四月には二千戸の中の一部分を入れる豫定でありますが、三源浦は地元に避難中の鮮農約二百戸を收容し、今春から耕作に從事せしめて居ります。此等の安全農村には必ず教育機關、醫療機關、金融機關が伴つて這入つてをります。そして十年位の間には二町乃至二町五反歩位の自作農になれる豫定であります。一度當り所要資金八百圓乃至千圓位の程度でありますが、之は年賦償還で返へして貰ふ事になつて居ります。拓務省計畫の内地人移民には一戸當り約一千五百圓位を只補助してやる事にしてをりますが、それでも成功するか、せぬかに就て疑問視せられて居ります。朝鮮の移民には只補助する樣な事なく投じた資金の全額を年賦償還をさせる計畫でをります。これだけでも朝鮮移民は内地人移民に比べ非常に力强いものであると思ひます。

間島には集團部落なるものが出來てをりますが、間島は狹い場所でありますけれども、朝鮮人の共産黨、滿人の匪賊、滿人の共産黨が奥深い山の中に這入つて居て、時々出て來て住民を苦しめてをります。此が爲に在住民は安心して生活することが出來ない狀態であります。さうして間島の移住朝鮮人は主として畑作をなして居て畑の中に自分の家を造つてをりますから、人家が點々として散在して

ある爲に匪賊等の襲撃には最も都合が宜いのであります。事變後匪賊及共產黨の襲撃が甚だしくなりたる爲皆鐵道沿線其他安全地帶に避難して來る者が多くなつたのであります。それで昭和八年から百戸を單位として集團部落を拵へることになりました。是は部落を高さ十二、三尺位な土壁で廻らし、その四隅に銃眼を拵へ、その中に百戸の避難民を收容し、そして壯丁二十人ばかりを選定し鐵砲を持たして警戒に當らしめ、その鐵砲の保護の下に外に出て百姓をするやうな計畫で進めてをります。八年度には九ヶ所作りましたが、その成績が非常に宜いので、間島の治安維持の爲には是非集團部落を要所〳〵に作る事の必要を認め、關東軍の方で是非その計畫を進めて呉れといふので、昨年は十六ヶ所、今年は五ヶ所都合三十ヶ所造ることになつてをります。それで滿洲國でも眞似をして九年度から始め、十年度迄に約七十ヶ所の集團部落を作りました。さういふ風にして現在に於ては奥地の危險地帶までも農民が安心して生活するやうになつてをります。それがために共匪の生活區域所謂ソビエツト區域はこれが爲に段々狹ばまつて來てをります。この樣な關係で集團部落が數多くなれば間島の治安は安全なものになるだらうと云うてをりますが、尙間島には自作農創定計畫をやつてをりますが、これは昭和六年度に於て計畫したものを七年度から實行してをります。これは總督府が間島に於ける朝鮮人小作農を自作農にさしてやらうといふ計畫でありまして。朝鮮總督府は東拓に對し年々十萬圓宛を補助し東拓は之に對して自己資金三十萬圓を加へ都合年々四十萬圓の金を出して土地を買ひ、家屋建築費、耕牛購入費及農耕資金を貸與し農耕に從事せしめるのであります。これも非常に成績がよく已に四個年間で二千三百戸ばかりの自作農が創定されてをりますが、一戸當り所要資金は約八百圓で土地は一年据置十五年以内、家屋及耕牛費は五年以内の年賦、農耕資金は大體一年限りとなつて居りますが之を拂ひ終ると約三町六反歩の地主になるのであります。

時間もありませんからこの邊でお話を終ります。（拍手）

○座長（賀田直治君） 何か御質問でもありましたらお訊きを願ひます、……今までの水田の成績は良好ですか。

○楊在河君 良好です。

○座長（賀田直治君） 將來餘程望みがありますか。

○楊在河君 有望です。

○楊在河君 滿洲の水田經營が如何に有望であるか例を上げて申上げます。

間島の北に寧安縣といふ縣がありますが、そこに東京城といふのがありまして、其處は元朝鮮人の樹てた渤海國の都のあつた處であるのでありますが、そこに慶尙南道の安熙濟といふ朝鮮人が行つて

五萬圓の金を以て水田の計畫をやつてをる。さうして土地を買つて水利工事をして立派なる水田にして耕作が出來るやうにし、さうして五ヶ年間繼續して毎年收穫物の十分の三を持つて來るならば五ヶ年後には只でその土地を耕作者にやるといふ契約をしてをります。之によつて如何に滿洲の水田が有利であるかゞ想像出來る事と思ひます。

○村上直助君　一年三町餘りの土地だけで他に別途の收入の方法がありませんか。

○楊在河君　今の處土地の耕作だけでも立派にやつて行ける、とにかく土地代が安いし、農產物は割合に高いですから……そこにいゝところがあります。

○座長（賀田直治君）　他にお話がなければ寔に時間が足りませんで遺憾でございますが、懇談會はこれを以て終ることに致します。暑い所を有難うございました。

昭和十年八月一日印刷納本
昭和十年八月五日發行（非賣品）
編輯兼發行人　篠崎嘉郎　東京市淀橋區柏木二丁目百七十番地ノ十號
印刷人　島連太郎
印刷所　三秀舍　東京市神田區美土代町十六番地
東京市麹町區丸ノ内三丁目十四番地
發行所　日滿實業協會
電話丸ノ内(23)五〇六一番
振替貯金口座東京四五八〇二番